

令和5年度

観光文化スポーツ部運営プログラム

評価票

令和6年8月
観光文化スポーツ部

令和5年度 観光文化スポーツ部施策体系

I 第4次山形県総合発展計画の推進

【 】：第4次山形県総合発展計画実施計画の施策番号

1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保【1】

- (1) 生涯を通じた多様な学びの機会の充実【1-2】
 - ① 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進

2 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化【3】

- (2) 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化【3-3】
 - ② 観光地域づくりの推進
 - ③ 戦略的な誘客促進
 - ④ 地域の特性や魅力を活かした多様な交流の促進

3 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

- (3) 国内外の活力を呼び込む多様で重層的な交通ネットワークの形成【5-2】
 - ⑤ 国際ネットワークの形成促進
 - ⑥ 国内広域交通ネットワークの充実強化
- (4) 地域の豊かな自然と地球の環境を守る持続可能な地域づくり【5-3】
 - ⑦ 自然環境や文化資産の保全・活用・継承
- (5) 地域の特性を活かし暮らしを支える活力ある圏域の形成【5-4】
 - ⑧ 県を越えた交流連携の推進

令和5年度 観光文化スポーツ部 主要事業実施状況

I 第4次山形県総合発展計画の推進

1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保【1】

(1) 生涯を通じた多様な学びの機会の充実【1-2】



取組みの成果

① 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進

K P I	県立文化施設等の来館者数					
	基準値（平成29年度）： 870,200人					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—	100万人	100万人	100万人
	実績値	583,242人	926,826人	1,122,781人	1,279,180人	
進捗状況	指標値どおりに推移					

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<文化芸術・スポーツ等に触れる機会の充実> (評価)

- ・ 本県における文化行政の基本理念を定めた「山形県文化基本条例」に基づき、文化に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「第2期山形県文化推進基本計画」を令和6年3月に策定した。
- ・ 文化芸術団体等との連携による「やまがた伝統文化フェスタ」の開催等により、親子で気軽に地域の文化や伝統芸能を体験できる機会を創出した。
- ・ 山形県生涯学習文化財団との連携による美術館・博物館が実施する企画展への支援、県民に優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供する文化施設・団体への支援、SNSでの情報発信等を実施することにより、県民に魅力ある企画展や優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供した。
- ・ 山形県総合文化芸術館における魅力ある公演・イベントの年間を通じた安定的な開催、遠方からの来館促進のための旅行商品造成等により、県内各地・県外から多くの来館があった。令和5年度の実績は約53万人となり、目標（26万人）を大きく上回った。
- ・ 県立博物館での特別展「Bones-生き物の骨格はどうなっているのか」では、剥製の実物展示を通して、自然界の動物について理解を深めることを狙いとし、生物多様性に係る学習の機会となる展示を行ったほか、プライム企画展「高等女学校と実科高等女学校—青春の学びと生活—」では、明治から昭和にかけて全国有数の女学校数を誇り、県内各地でさまざまな教育活動が行われていた本県の質の高い女子教育の歴史を広く県内外にアピールした。
また、県内高校生による学芸員一日体験講座を開催することにより、博物館の資料に触れ調査研究への興味関心を高めることが出来た。
さらに、QRコードを利用した展示解説やHP上でのヴァーチャルミュージアムを実施し、利用者の利便性を高めるとともにデジタル技術を活用した博物館展示の魅力向上に努めた。
- ・ 県内プロスポーツチームへの支援やスポーツイベントの開催などを通して、多くの県民がスポーツを通じた交流を深めることが出来た。

(見直しの方向性)

- ・ 「第2期山形県文化推進基本計画」に基づく各種施策を展開していく。
- ・ 美術館・博物館・文化施設・文化芸術団体への支援を通して、引き続き県民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供していく。
- ・ 山形県総合文化芸術館の利用者との意見交換会等を実施し利用促進に向けた意見を聴取することにより、施設の管理運営や企画事業の検討等に反映させるとともに、引き続き旅行者による旅行商品の造成を働きかけるなど、県内外からの来館者を増やすための取組みを進めていく。
- ・ 県立博物館を生涯学習の拠点として、時機を捉えたテーマの設定や、デジタル技術も活用した来館者ニーズを踏まえた魅力ある企画・展示を行っていくとともに、学校教育等との一層の連携を図っていく。
- ・ プロスポーツ団体への支援やスポーツイベントの開催を通し、県民がスポーツに触れる機会を引き続き提供していく。

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
山形県文化芸術交流発信事業費	1,092 (1,268)	・ 地域住民の主体的な文化芸術活動を促進し地域の活性化を図るため、文化芸術活動と地域住民を繋ぐ役割を担う人材「地域文化コーディネーター」の研修事業を実施	4
山形県総合文化芸術館事業費	20,567 (20,600)	・ 指定管理者との共催により、山形県総合文化芸術館を活かした本格的な舞台芸術鑑賞事業・施設に親しむ体験型事業を実施	4
文化による地域への愛着・誇り醸成事業費	4,268 (4,504)	・ 子ども達の伝統芸能や文化芸術活動の発表の場と地域で守り継がれてきた民俗芸能や伝統文化体験機会の創出 ・ 親子で気軽に伝統文化体験や民俗芸能の鑑賞をしてもらう「やまがた伝統文化フェスタ」を開催	4
文化団体等連携支援事業費	100,147 (100,622)	・ 県内の主要な美術館・博物館が実施する企画展及び山形交響楽団の活動への支援（美術館等の企画展等への支援、山響の主催公演等への支援）を実施	4
文化芸術施設等誘客促進支援事業費	3,398 (4,080)	・ 伝統芸能団体の利用促進への支援、文化芸術施設等の誘客促進に係る事業構築へのコンサルタント派遣	4
博物館活動整備事業費	12,124 (13,127)	・ プライム企画展の開催 「高等女学校と実科高等女学校－青春の学びと生活－」R5年9月30日～12月10日 ・ 特別展の開催 「Bones－生き物の骨格はどうなっているのか－」R5年6月3日～8月27日	4
プロスポーツ支援事業費	138,336 (138,634)	・ 県内プロスポーツチームへの支援（3チーム） ・ プロスポーツを活用した地域活性化の取組み	4

		への支援等	
スポーツ振興・地域活性化推進事業費	5,910 (6,311)	・県内で合宿する県外文化・スポーツ団体の誘致のための補助（3件） ・スポーツイベント（パブリックビューイングやモルック）の開催による交流の拡大	4
計	285,842 (289,146)		

2 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化【3】

(2) 国内外からの観光・交流の拡大による地域経済の活性化【3-3】



目標指標	観光消費額
	基準値（平成30年度）： 2,177億円 直近値（令和4年度）： 1,528億円（前年値1,252億円 前年比 +276億円） 目標値（令和6年度）： 2,600億円
	進捗状況 策定時を下回る

取組みの成果

② 観光地域づくりの推進

K P I	観光者数					
		基準値（平成30年度）： 46,507千人				
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—	— ※	49,400千人	50,000千人
	実績値	27,511千人	30,059千人	36,034千人 (直近値)	—	
	進捗状況	その他（新型コロナの影響でR2～R4は指標値を設定せず）				
	平均宿泊数					
		基準値（平成30年）：1.32泊（全国平均：1.33泊）				
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	—	—	— ※	全国平均以上	全国平均以上
実績値	1.32泊 (全国1.33泊)	1.42泊 (全国1.33泊)	1.42泊 (全国1.35泊)	1.35泊 (全国1.41泊)		
進捗状況	概ね順調に推移					

※ 新型コロナウイルスの影響による観光イベントの中止や規模を縮小した限定的な実施等、令和4年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<質の高いツーリズムの推進>

(評価)

- ・ 探究型学習やSDGs（持続可能な開発目標）に対応した教育旅行メニューを掲載したパンフレットを活用し、首都圏や関西圏、東北など幅広いエリアの旅行会社に対するセールス活動等を実施した。
- ・ 「やまがた紅王」をはじめとする本県さくらんぼのブランド力を活かしたツアー造成や動画による情報発信を行った。

- ・ 地域色豊かな本県の食文化の魅力を「ラーメン県そば王国」として新たに打ち出したほか、「やまがた出羽百観音」の認知度向上と来訪意欲の向上に向けた Web や雑誌、鉄道車内等への広告掲載など、山形ならではの魅力的な観光資源を活用したツーリズムの発信を行った。
 - ・ 「『山形日和。』春の観光キャンペーン」・「『山形日和。』冬の観光キャンペーン」などにおける「山形ならではの」の旬の魅力を伝える特設サイトでの情報発信、メディアミックスによる広報、WEB・SNS を活用した情報発信や旅行者投稿型のキャンペーン等のほか、東北中央自動車道を活用したデジタル周遊スタンプラリーの実施などにより、観光誘客を促進した。
 - ・ 地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと、誘客企画を検討するワークショップの開催などを通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成などに取り組み、人材のレベルアップを図り、新たな観光地域づくりを推進した。
 - ・ 貸切バスやタクシーを利用した着地型オプショナルツアーや旅行者ニーズに合わせた手配型商品等の造成を促進した。
 - ・ 台湾及び香港を含む繁体字圏に訴求力のあるオンライントラベルエージェント上で、JR 東日本や臨県と連携して安全・安心な旅を PR するとともに、JR イーストバスをセットにした旅行商品を販売した。
 - ・ 東北観光推進機構等と連携し、インバウンド誘客を狙う地域や国の特性に合わせ、旅行会社や航空会社、メディア・インフルエンサーを招請し、プロモーションを実施した。
- (見直しの方向性)
- ・ 教育旅行先として東北地方への関心が高まっているなか、本県が旅行先に選ばれるように探究型学習・SDGs (持続可能な開発目標) に関連した質の高い学習コンテンツの造成や体験プログラムの充実を図り、引き続き首都圏・関西圏など幅広いエリアの旅行会社及び教育機関へのセールス活動や招請事業を実施する。
 - ・ 令和7年度のさくらんぼ栽培150周年に向けて、県内外において「さくらんぼ県やまがた」のブランドイメージを活かした観光誘客を推進し、本県への観光者数の拡大を図る。
 - ・ 引き続き「やまがた出羽百観音」等の精神文化の更なる認知度向上や来訪意欲の向上に資する情報発信を強化するとともに、「ラーメン県そば王国」をはじめとする本県が誇る観光資源を活用した各種ツーリズムの発信・展開等により本県への誘客を促進していく。
 - ・ これまで磨き上げた観光素材も活かしながら、JR 東日本との連携による「山形県春の観光キャンペーン」(令和6年4月～6月)等を展開し、引き続き観光誘客を促進する。
 - ・ 引き続き、アドバイザーを通じて全国の先進事例を取り込む等人材のレベルアップを図り、新たな観光地域づくりを推進する。
 - ・ 最新の観光動向を注視しながら、旅行者ニーズに合わせた観光コンテンツや旅行商品等の造成を促進し、国内外から本県への観光誘客を拡大させ、本県における観光消費額の増加や地域経済の活性化を図る。

<四季のリゾート“世界の蔵王”としての確立>

(評価)

- ・ 蔵王温泉、蔵王坊平、蔵王猿倉地域全体の総合的な情報発信基盤として構築した蔵王総合情報サイト「feel the ZA0」を運営した。
- ・ 蔵王連峰として山々が広がる蔵王の特性を活かし、地域全体に広がる多彩なスキー場やトレッキング、温泉など蔵王各地域での多様な楽しみの体験を促すことを目的として、エリア内における二次交通に関する実証事業を実施した。

(見直しの方向性)

- ・ 四季を捉えた滞在コンテンツや特集記事の充実など、蔵王総合情報サイトの内容の拡充を継続することにより情報発信を強化する。
- ・ 引き続き、蔵王地域内の移動ニーズの把握や二次交通の実証事業を行うとともに、地域間で連携して多様な楽しみ方を体験できる情報を提供するなど、長期滞在に資するための取り組みを実施していく。

<観光地域としての受入環境の整備>

(評価)

- ・ 交通の拠点となる駅と観光地などを結ぶバス運行への支援や朝パフェやまがたキャンペーンの展開、県内各地域において観光客のお出迎え（パンフレットやノベルティの配付等）支援等を実施し、受入態勢を整備した。

(見直しの方向性)

- ・ 引き続き観光地までの二次交通整備やおもてなしへの支援を行い、受入環境の向上を図る。

<広域的な交通ネットワークの利便性向上と広域観光周遊ルートの形成>

(評価)

- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を行い、コロナ期間を挟んで運休となっていたバスの運行再開が実現した（仙台空港－山形：1日2往復、仙台空港－庄内：1日1往復）
- ・ 外国人専用鉄道バスを活用した首都圏（羽田空港・成田空港）から本県への旅行商品造成のため、インフルエンサー招請やOTA（オンライントラベルエージェント）での情報発信を行った。

(見直しの方向性)

- ・ 令和5年度に再開した仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスについて、運行事業者による同区間の自走化に向けて、令和6年度も引き続き支援を行い、仙台空港から本県へのインバウンド等の観光誘客を促進する。
- ・ インバウンドの各重点市場に対して、仙台空港からの県内周遊プランを周知することで、FIT層（海外からの個人旅行者）の本県への誘客を促進する。

<観光地域づくりの担い手の育成>

- ・ 「山形おもてなしドライバー検定」（受講者32名）及び「山形観光アカデミー」による研修（4講座、計253名）を実施し、観光関係事業者のおもてなし力向上を図った。
- ・ 地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと、誘客企画を検討するワークショップの開催などを通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成などに取り組み、人材のレベルアップを図り、新たな観光地域づくりを推進した。（再掲）
- ・ 県内宿泊施設への海外からのインターンシップ受入れを促進し、当該施設への就職に結び付けていくため、台湾の大学関係者と県内の旅館・ホテル関係者による意見交換会を台湾において開催した。（台湾の14大学、県内9事業者が参加）

(見直しの方向性)

- ・ 引き続き、「山形おもてなしドライバー検定」や危機管理に関する講座を含めた「山形観光アカデミー」等の研修を実施し、おもてなし力の向上に向けた観光人材の育成を図っていく。
- ・ 継続して、アドバイザーを通じて全国の先進事例を取り込む等人材のレベルアップを図り、新たな観光地域づくりを推進する。
- ・ 引き続き、台湾の教育機関や人材派遣機関と県内宿泊施設とのマッチング支援として、現地大学関係者による県内旅館・ホテルの現地視察を行うとともに、新たなターゲットとして設定する北東インドでの意見交換会を開催するなど、外国人材の受入れを促進していく。

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連するSDGsの ゴール
ポストコロナに向けた観光復活推進事業費	56,142 (57,241)	・ 県内4地域において、地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと誘客企画を検討するワークショップの開催などを	8

		<p>通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成に取り組むなどにより、人材のレベルアップを図り、新たな観光地づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾及び香港を含む繁体字圏に訴求力のあるインフルエンサーの招請をJR東日本や近隣県との連携により実施 ・東北観光推進機構等と連携した広域観光データの活用推進や分析力強化 	
やまがた的グリーン・ツーリズム推進事業費	10,579 (10,734)	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた的グリーン・ツーリズム」HPやグリーン・ツーリズムNEWSにより、旬のグリーン・ツーリズム情報を首都圏や近隣県に向けて発信 	8
観光連携推進事業費	81,948 (83,725)	<ul style="list-style-type: none"> ・(公社)山形県観光物産協会が実施する本県観光振興を図るための事業に対して助成 	8
観光キャンペーン推進事業費	29,160 (29,160)	<ul style="list-style-type: none"> ・官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金 	8
教育旅行推進事業費	18,073 (18,073)	<ul style="list-style-type: none"> ・貸切バスへの助成、受入態勢の整備、旅行会社に対する誘致活動の実施等 	8
雪を活用した観光誘客支援事業費	9,675 (9,675)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が減少する冬期間において、広域的な観光誘客に取り組むことで、年間を通じた観光交流の拡大を図るため、冬の大型イベントとして官民挙げた取組みを実施(やまがた音と光のファンタジアを開催) 	8
地域広域観光推進事業費	12,455 (12,482)	<ul style="list-style-type: none"> ・各総合支庁において、地域の広域観光協議会と連携のうえ、地域ならではの特色や強みを活かした観光資源の発掘や磨き上げを図りながら観光誘客を推進 	8
「さくらんぼ県やまがた」観光誘客促進事業費	8,232 (8,234)	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらんぼ狩りを含むツアー造成支援 ・山形交響楽団とのコラボ動画による情報発信 	8
山岳観光推進事業費	9,530 (10,938)	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の蔵王」プロジェクト事業推進に向けて、蔵王情報総合サイトの運営や、エリア内における二次交通に関する実証事業等を実施 	8
精神文化ツーリズム推進事業費	10,560 (10,619)	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の強みである「やまがた出羽百観音」等の精神文化のブランド化に向けて、多様な媒体への記事掲載、インターネットリサーチによる認知度調査や過去のプロモーションの効果検証等を実施 	8
観光誘客総合推進事業費	78,172 (78,259)	<ul style="list-style-type: none"> ・「山形おもてなしドライバー検定」(受講者32名)を実施。 ・東京都と連携した観光誘客事業の展開 	8
乗って満喫!やまがたバス旅促進事業費	157,716 (252,800)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者の運行する貸切バス・タクシーを活用した多様な旅行商品の造成を促進することにより、県内の交通事業者と旅行会社への支援を実施。(助成件数:419件) ・仙台空港と山形・庄内を結ぶバスを運行する交通事業者(2社)への支援を実施。 	8

海外インターンシップ宿泊施設受入促進事業費	1,242 (1,243)	・ 県内宿泊施設への海外からのインターンシップ受入れに向けた台湾の大学関係者と県内の旅館・ホテル関係者による意見交換会を台湾において開催（台湾14大学、県内9事業者）	8
計	483,484 (583,183)	・	

③戦略的な誘客促進

K P I	県観光情報ポータルサイトのアクセス件数					
	基準値（平成30年度）：229万件					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	240万件	280万件	310万件	330万件	350万件
	実績値	162万件	215万件	364万件	409万件	
	進捗状況	指標値どおりに推移				
	外国人旅行者受入数					
	基準値（平成30年度）：252,289人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	—※	520,000人	600,000人
	実績値	125,930人	17,083人	56,051人	400,338人 （※速報値）	
	進捗状況	進捗又は横ばい				
	延べ外国人旅行者宿泊者数					
	基準値（平成30年）：163,460人泊					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	—※	345,000人泊	400,000人泊
実績値	87,440人泊	15,920人泊	25,900人泊	178,790人泊		
進捗状況	進捗又は横ばい					

※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る入国制限が継続され、令和4年度の動向について見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<観光関連産業の回復・活性化>

（評価）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ本県観光果樹園の入込者数をはじめ、県内観光者数の回復のために、「やまがた紅王」をはじめとするさくらんぼのブランドイメージを活用したツアー造成や動画による情報発信を行った。
- ・ 「『山形日和。』春の観光キャンペーン」・「『山形日和。』冬の観光キャンペーン」などにおける「山形ならではの」の旬の魅力を伝える特設サイトでの情報発信、メディアミックスによる広報、WEB・SNSを活用した情報発信や旅行者投稿型のキャンペーン等のほか、東北中央自

動車道を活用したデジタル周遊スタンプラリーの実施などにより、観光誘客を促進した。(再掲)

- ・ 地域の実情に応じて先進的な知見を有するアドバイザーのもと、誘客企画を検討するワークショップの開催などを通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成などに取り組み、人材のレベルアップを図り、新たな観光地域づくりを推進した。(再掲)
- ・ 県内観光事業者が経営力強化を図るために行ったDXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成、観光業に精通した専門アドバイザーの派遣による伴走支援を実施した。
- ・ 旅行会社への支援を通して、貸切バス・タクシーを利用した着地型オプションツアーや旅行者ニーズに合わせた手配型商品等の造成を促進した。

(見直しの方向性)

- ・ 令和7年度のさくらんぼ栽培150周年に向けて、県内外において「さくらんぼ県やまがた」のブランドイメージを活かした観光誘客を推進し、本県への観光者数の拡大を図る。(再掲)
- ・ これまで磨き上げた観光素材も活かしながら、JR東日本との連携による「令和6年度山形県春の観光キャンペーン」(令和6年4月～6月)等を展開し、引き続き観光誘客を促進する。(再掲)
- ・ 引き続き、アドバイザーを通じて全国の先進事例を取り込む等人材のレベルアップを図り、新たな観光地域づくりを推進する。(再掲)
- ・ 継続して、観光事業者が行う観光DXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成、観光業に精通した専門アドバイザーの派遣による伴走支援を行い、県内観光事業者の経営力強化を促進する。
- ・ 引き続き、観光の動向を注視しながら、旅行者ニーズに合わせた観光コンテンツや旅行商品等の造成を促進し、本県における観光消費額の増加や地域経済の活性化を図っていく。

<情報発信の強化>

(評価)

- ・ 東京都との観光連携Webサイト「わたしのための、ほっこり旅。」と「やまがたへの旅」や「STAY YAMAGATA」をリンクし、本県観光情報サイトの利用者拡大を図った。
- ・ 多言語版の県観光情報ポータルサイト「STAY YAMAGATA」の特集記事作成、インバウンド向け動画「myyamagata」春版、四季統合版の作成などの充実を図った。
- ・ 首都圏からの観光誘客の拡大を図るため、観光情報番組(「ワクワク!やまが旅」)を制作・放映し、本県の魅力ある観光情報を発信した。
- ・ 本県の観光地やイベント等について出題し、県内外の受験者に本県の観光について楽しみながら学んでもらう「山形県版ふるさと観光検定」をWeb上で実施した。

(見直しの方向性)

- ・ 東京都との観光連携Webサイト「わたしのための、ほっこり旅。」の特集記事の充実を図り、「やまがたへの旅」や「STAY YAMAGATA」の利用者拡大につなげる。
- ・ 多言語版の県観光情報ポータルサイト「STAY YAMAGATA」について、知名度・認知度を向上させ、利用を促進する。
- ・ 観光情報番組を活用しながら、本県の魅力ある観光情報を発信し、首都圏からの更なる誘客拡大を図っていく。

<「観光デジタルマーケティング」の推進>

(評価)

- ・ 県観光情報ポータルサイト「やまがたへの旅」やSNSのアクセスデータ、観光統計データ等の分析による旅行者の嗜好を踏まえたデジタルプロモーションを実施した。
- ・ 旅行者の嗜好を踏まえた記事の充実を図ったことで前年を上回るアクセスを確保した。

(見直しの方向性)

- ・ 東北観光推進機構等と連携し、広域的なWebアクセスデータや動態データ、消費データ等を収集した上で、データ活用及び分析の強化を図る。

<インバウンドの推進>

(評価)

- ・ 渡航制限の緩和に対応し、旅行会社向けの助成を行うとともに、台湾、香港、韓国及びタイにおいて現地プロモーション等を展開し、県内への誘客を促進した。
- ・ 県内空港への国際チャーター便について、台湾から山形空港（令和5年10月から令和6年3月にかけて、計46往復92便）、また、韓国から庄内空港（令和5年11月及び令和6年2月に計3往復6便）へのチャーター便が運航された。
- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を行い、コロナ期間を挟んで運休となっていたバスの運行再開が実現した。（仙台空港－山形：1日2往復、仙台空港－庄内：1日1往復）（再掲）
- ・ 外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田空港・成田空港）から本県への旅行商品造成のため、インフルエンサー招請やOTA（オンライントラベルエージェント）での情報発信を行った。（再掲）
- ・ 官民一体となって船会社幹部及びランドオペレーターへの招請などを実施し、日本における外航クルーズ船の受入れ再開以後、令和5年度には過去最多となる計6回のクルーズ船が酒田港に寄港した。

(見直しの方向性)

- ・ 旺盛なインバウンド需要を好機として、旅行会社や航空会社向けの助成を実施し、県内へのインバウンド誘客を促進する。
- ・ 県内空港への国際チャーター便就航に向けて、現地コーディネーター等と連携し、航空会社や旅行会社に対する誘致活動を継続する。
- ・ 隣県や関係機関と連携し、各重点市場に対して仙台空港からの県内周遊プランの周知を行い、F I T層の山形への誘客を図る。
- ・ 令和5年度に再開した仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスについて、運行事業者による同区間の自走化に向けて、令和6年度も引き続き支援を行い、仙台空港から本県へのインバウンド等の観光誘客を促進する。（再掲）。
- ・ JR 東日本や新潟県と連携し、外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田空港・成田空港）から本県への直接的な誘客を図る。
- ・ 外航クルーズ船について、近隣県と連携し運航決定権のある船会社幹部の招請など誘致活動を継続するとともに、付加価値の高い寄港地観光のためのプロモーション等を実施する。

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
「さくらんぼ県 やまがた」観光 誘客促進事業費 (再掲)	8,232 (8,234)	・ さくらんぼ狩りを含むツアー造成支援 ・ 山形交響楽団とのコラボ動画による情報発信	8
山形県版ふるさと 観光検定事業 費	6,247 (6,247)	・ WEB上において、無料で受検可能な「山形ふる さと観光検定」を実施（総受検数：24,637回）	8
ポストコロナに 向けた観光復活 推進事業費（再 掲）	56,142 (57,241)	・ 県内4地域において、地域の実情に応じて先 進的な知見を有するアドバイザーのもと誘客 企画を検討するワークショップの開催などを 通して、食や自然等をテーマに旅行商品造成 に取り組むなどにより、人材のレベルアップ を図り、新たな観光地づくりを推進	8

		<ul style="list-style-type: none"> 台湾及び香港を含む繁体字圏に訴求力のあるインフルエンサーの招請をJR東日本や近隣県との連携により実施 東北観光推進機構等と連携した広域観光データの活用推進や分析力強化 	
観光誘客総合推進事業費（再掲）	78,172 (78,259)	<ul style="list-style-type: none"> 「山形おもてなしドライバー検定」（受講者32名）を実施。 東京都と連携した観光誘客事業の展開 	8
観光情報番組放映事業費	31,214 (31,254)	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏からの観光誘客の拡大を図る観光情報番組「わくわく！やまが旅」を放映（46回） 	8
DX総合推進事業費【産業労働部所管事業】のうち、観光業専門アドバイザー派遣事業	18,030 の一部 (19,299の一部)	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業者のDXの推進や高付加価値化等に向けた観光業専門アドバイザーの派遣による伴走支援（実績：10事業者49回） 	8
中小企業パワーアップ補助事業【産業労働部所管事業】のうち、観光施設経営強化支援事業	330,776 の一部 (359,654の一部)	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業者が経営力強化を図るために行ったDXの推進や高付加価値化に向けた取組みに対する助成（助成件数：59件） 	8
インバウンド復活に向けた誘客促進事業費	81,010 (148,660)	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社に対するツアー造成支援を実施 航空会社に対する県内空港への着陸料を支援 	8
重点市場のポストコロナに向けた誘客推進事業費	20,464 (20,468)	<ul style="list-style-type: none"> 現地観光コーディネーター等による現地情報の収集や本県観光情報の発信等による重点市場（台湾、中国、香港、韓国、ASEAN）からの誘客を促進 他県空港から入国した外国人旅行者を誘客するための旅行会社への支援を実施 台湾、香港、韓国、タイでの現地プロモーションを実施 	8
観光キャンペーン推進事業費（再掲）	29,160 (29,160)	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金 	8
地域間交流・海外教育旅行推進事業費	1,900 (2,100)	<ul style="list-style-type: none"> 海外での交流活動への支援及び海外教育旅行の誘致に向けたプロモーションを実施し、台湾から学校関係者を招請 	8
外航クルーズ船誘客事業費	14,836 (14,836)	<ul style="list-style-type: none"> 酒田港への外航クルーズ船の寄港（過去最多となる6回の受入） 官民一体となった“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会を中心に、船会社幹部及びランドオペレーターへの招請などを実施 	8
乗って満喫！やまがたバス旅促進事業費（再掲）	157,716 (252,800)	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者の運行する貸切バス・タクシーを活用した多様な旅行商品の造成を促進することにより、県内の交通事業者と旅行会社への支援を実施。（助成件数：419件） 仙台空港と山形・庄内を結ぶバスを運行する交 	8

		通事業者（2社）への支援を実施。	
国際チャーター便等による観光交流拡大事業費	9,677 (14,606)	・ 県内空港への国際チャーター便を活用して旅行商品を造成した県内旅行会社（2社）に対する支援（造成経費の一部助成） ・ 県民のパスポート取得を促進するための支援の実施（県内旅行会社19社）	8
計	843,576 の一部 (1,042,818 の一部)		

④地域の特性や魅力を活かした多様な交流の促進

K P I	県内への文化・スポーツ合宿の新規誘致数					
	基準値（令和元年度）：3団体					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	— ※	3団体	3団体	3団体
	実績値	1団体	0団体	3団体	3団体	
	進捗状況	指標値どおりに推移				

※ 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<文化芸術活動・スポーツを通じた交流の促進>

（評価）

- ・ 文化・スポーツ合宿を行う団体の新規誘致数は3団体となった。
- ・ 山形県総合文化芸術館における魅力ある公演・イベントの年間を通じた安定的な開催、遠方からの来館促進のための旅行商品造成等により、県内各地・県外から多くの来館があった。令和5年度の来館者数は約53万人となり、目標（26万人）を大きく上回った。（再掲）
- ・ 県外で本県の文化を発信するため、山形交響楽団東京公演を支援し、本県の観光地や県産品・文化施設等をPRした。
- ・ 県立博物館での特別展「Bones-生き物の骨格はどうなっているのか」では、剥製の実物展示を通して、自然界の動物について理解を深めることをねらいとし、生物多様性に係る学習の機会となる展示を行ったほか、プライム企画展「高等女学校と実科高等女学校—青春の学びと生活—」では、明治から昭和にかけて全国有数の女学校数を誇り、県内各地でさまざまな教育活動が行われていた本県の質の高い女子教育の歴史を広く県内外にアピールした。

（再掲）

- ・ さらに、QRコードを利用した展示解説やHP上でのヴァーチャルミュージアムを実施し、利用者の利便性を高めるとともにデジタル技術を活用した博物館展示の魅力向上に努めた。

（再掲）

（見直しの方向性）

- ・ 県内のスポーツ施設・宿泊施設を活用した合宿の誘致やイベント開催を推進していく。
- ・ 山形県総合文化芸術館の利用者との意見交換会等を実施し利用促進に向けた意見等を聴取することにより、施設の管理運営や企画事業の検討等に反映させるとともに、引き続き旅行事業者による旅行商品の造成を働きかけるなど、県内外からの来館者を増やすための取組みを進めていく。（再掲）

<ul style="list-style-type: none"> 山形交響楽団の東京公演に対して引き続き支援し、本県の文化・観光の魅力を発信する取組みを進める。 <p><海外との相互交流の促進> (評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホストタウンを契機とした相手国・地域とオンラインで繋がるなど、工夫を凝らした交流や情報発信が行われた。 <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京 2020 オリンピックが終了し、ホストタウン交流は一つの区切りを迎えたが、交流事例の紹介などにより、引き続き国際交流を推進していく。
--

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
文化団体等連携 支援事業費(再 掲)	100,147 (100,622)	・県内の主要な美術館・博物館が実施する企画展及び山形交響楽団の活動への支援(美術館等の企画展等への支援、山響の主催公演等への支援)を実施	8
山形県文化芸術 交流発信事業費 (再掲)	1,092 (1,268)	・地域住民の主体的な文化芸術活動を促進し地域の活性化を図るため、文化芸術活動と地域住民を繋ぐ役割を担う人材「地域文化コーディネーター」の研修事業を実施	8
博物館活動整備 事業費(再掲)	12,124 (13,127)	・プライム企画展の開催 「高等女学校と実科高等女学校ー青春の学びと生活ー」R5年9月30日～12月10日 ・特別展の開催 「Bonesー生き物の骨格はどうなっているのかー」R5年6月3日～8月27日	8
文化による地域 への愛着・誇り 醸成事業費(再 掲)	4,268 (4,504)	・子ども達の伝統芸能や文化芸術活動の発表の場と地域で守り継がれてきた民俗芸能や伝統文化体験機会の創出 ・親子で気軽に伝統文化体験や民俗芸能の鑑賞をしてもらう「やまがた伝統文化フェスタ」を開催	8
文化財指定業務 費	2,583 (2,805)	・文化財保護審議会の開催(3回)及び文化財調査を実施(4日間×3回)	8
文化財保護事業 費	48,153 (50,876)	・国・県指定文化財の保存修理(国宝羽黒山五重塔など27件)等への支援の実施	8
「未来に伝える 山形の宝」登録 制度推進事業費	2,585 (2,681)	・地域の文化財を保存・活用する取組みについて既登録団体4団体の取組みに対する補助を実施	8
文化財管理・防 災推進事業費	2,181 (2,209)	・国・県指定文化財の管理・防災対策状況等の把握のためのパトロールの実施(73件)及び所有者向け文化財日常管理・防災ハンドブック(美術工芸品)の作成	8
日本遺産魅力発 信推進事業費	1,890 (1,900)	・日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及び「山寺と紅花」を活用した取組みの実施及び情報発信	8

埋蔵文化財保護 事業費	34,837 (34,839)	・農林公共事業に係る発掘調査(1件)及び埋蔵文化財の普及啓発を実施(埋蔵文化財センターへの委託)	8
山形県総合文化 芸術館事業費 (再掲)	20,567 (20,600)	・指定管理者との共催により、山形県総合文化芸術館を活かした本格的な舞台芸術鑑賞事業 ・施設に親しむ体験型事業を実施	8
旧県民会館解体 事業費	406,694 (407,000)	・旧県民会館の解体工事を実施	8
スポーツ振興・ 地域活性化推進 事業費(再掲)	5,910 (6,311)	・県内で合宿する県外文化・スポーツ団体の誘致のための補助(3件) ・スポーツイベント(パブリックビューイングやモルック)の開催による交流の拡大	8
プロスポーツ支 援事業費(再 掲)	138,336 (138,634)	・県内プロスポーツチームへの支援(3チーム) ・プロスポーツを活用した地域活性化の取り組みへの支援等	8
計	781,367 (787,376)		

3 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用【5】

(3) 国内外の活力を呼び込む多様で重層的な交通ネットワークの形成【5-2】



施策の推進方向と主な取組み

⑤ 国際ネットワークの形成促進

外国人旅行者受入数（再掲）					
	基準値（平成30年度）：252,289人				
	R2	R3	R4	R5	R6
指標値	—	—	— ※	520,000人	600,000人
実績値	125,930人	17,083人	56,051人	400,338人 （※速報値）	
進捗状況	進捗又は横ばい				

※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る入国制限が継続され、令和4年度の動向について見通すことが困難であったため、

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<三大都市圏や近隣県の国際空港との連携>

（評価）

- ・ 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を行い、コロナ期間を挟んで運休となっていたバスの運行再開が実現した（仙台空港－山形：1日2往復、仙台空港－庄内：1日1往復）。（再掲）
- ・ 外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田空港・成田空港）から本県への旅行商品造成のため、インフルエンサー招請やOTA（オンライントラベルエージェント）での情報発信を行った。（再掲）

（見直しの方向性）

- ・ 隣県や関係機関と連携し、各重点市場に対して仙台空港からの県内周遊プランの周知を行い、FIT層（海外からの個人旅行者）の山形への誘客を図る。（再掲）
- ・ JR東日本や新潟県と連携し、外国人専用鉄道パスを活用した首都圏（羽田・成田空港）から本県への直接的な誘客を図る。（再掲）

<広域的な移動を支える二次交通の充実>

（評価）

- ・ 交通の拠点となる駅と観光地などを結ぶバス運行への支援や朝パフェやまがたキャンペーンの展開、県内各地域において観光客のお出迎え（パンフレットやノベルティの配付等）支援等を実施し、受入態勢を整備した。（再掲）

（見直しの方向性）

- ・ 引き続き、観光地までの二次交通整備やおもてなしへの支援を実施し、受入環境の向上を図る。（再掲）

<酒田港の機能強化>

（評価）

- ・ 官民一体となって船会社幹部及びランドオペレーターの招請などを実施し、日本における外航クルーズ船の受入れ再開以後、令和5年度には過去最多となる計6回のクルーズ船が酒

田港に寄港した。(再掲) (見直しの方向性) ・ 近隣県と連携し、外航クルーズ船の運航決定権のある船会社幹部の招請など誘致活動を継続するとともに、付加価値の高い寄港地観光のためのプロモーション等を実施する。(再掲)

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
観光キャンペーン推進事業費 (再掲)	29,160 (29,160)	・官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金	11
ポストコロナに向けた観光復活推進事業費(再掲)	56,142 (57,241)	・台湾及び香港を含む繁体字圏に訴求力のあるインフルエンサーの招請をJR東日本や近隣県との連携により実施	11
外航クルーズ船誘客事業費(再掲)	14,836 (14,836)	・酒田港への外航クルーズ船の寄港(過去最多となる6回の受入)(再掲) ・官民一体となった“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会を中心に、船社幹部及びランドオペレーターの招請などを実施(再掲)	11
乗って満喫!やまがたバス旅促進事業費(再掲)	157,716 (252,800)	・仙台空港と山形・庄内を結ぶバスを運行する交通事業者(2社)に対する支援を実施(再掲)	11
計	257,854 (354,037)		

⑥国内広域交通ネットワークの充実強化

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<広域的な移動を支える二次交通の充実> (評価) ・ 交通の拠点となる駅と観光地などを結ぶバス運行への支援や朝パフェやまがたキャンペーンの展開、県内各地域において観光客のお出迎え(パンフレットやノベルティの配付等)支援等を実施し、受入態勢を整備した。(再掲) (見直しの方向性) ・ 引き続き、観光地までの二次交通整備やおもてなしへの支援を実施し、受入環境の向上を図る。(再掲)

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
観光キャンペーン推進事業費 (再掲)	29,160 (29,160)	・官民一体となった誘客拡大を推進する「やまがた観光キャンペーン推進協議会」の負担金	11
計	29,160 (29,160)		

(4)地域の豊かな自然と地球の環境を守る持続可能な地域づくり【5-3】



施策の推進方向と主な取組み

⑦自然環境や文化資産の保全・活用・継承

K P I	地域の伝統・文化行事等に参加している児童生徒の割合					
	基準値（令和元年度）：小6：85.7%、中3：65.9%					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	— ※	小6：90% 中3：70%	小6：90% 中3：70%	小6：90% 中3：70%
	実績値	—	小6：77.0% 中3：59.8%	小6：71.6% 中3：55.3%	小6：75.6% 中3：49.0%	
進捗状況	策定時を下回る					

※ 新型コロナウイルスの影響により動向を見通すことが困難であったため、指標値を設定しなかったもの。

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<p><文化資産の活用・継承> (評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県文化財保存活用大綱に基づき、文化財を確実に次世代へ継承するため、保存とその活用にかかる各種取組みを実施した。 地域の文化財を保存・活用する取組みについて「未来に伝える山形の宝」登録団体への補助を行った。また、「やまがた伝統文化フェスタ」において「ふるさと芸能のつどい」を開催し、県内2団体に出演発表いただくとともに、団体同士がゆるやかにつながることができるネットワーク構築を支援した。 日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及び「山寺と紅花」を活用し、小学生を対象とした親子伝統文化体験事業を実施した。体験の様子を撮影して楽しく学べる番組仕立ての動画を制作し、動画告知チラシを構成市町の小学校に配付し広く周知した。 <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存と活用の好循環の推進 ⇒ 引き続き、県文化財保存活用大綱に基づき、文化財を確実に次世代へ継承するために、保存と活用の好循環につながる取組みを実施する。 伝統文化・民俗芸能の継承 ⇒ 引き続き、地域の文化財を保存・活用する取組みを掘り起こし、「未来に伝える山形の宝」登録制度への新規登録を推進し、支援を行う。 日本遺産の活用 ⇒ 引き続き、日本遺産を活用し、観光振興、地域活性化を図るとともに、人材育成や普及啓発の取組みを通して文化資産の保存・継承につなげていく。

【令和5年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連するSDGsのゴール
「未来に伝える山形の宝」登録制度推	2,585 (2,681)	・地域の文化財を保存・活用する取組みについて既登録団体4団体の取組みについて補助を	4

進事業費（再掲）		施	
日本遺産魅力発信 推進事業費（再 掲）	1,890 (1,900)	・日本遺産「出羽三山『生まれかわりの旅』」及 び「山寺と紅花」を活用した取組みの実施及び 情報発信	4
文化財保護事業費 （再掲）	48,153 (50,876)	・国・県指定文化財の保存修理（国宝羽黒山五重 塔など27件）等への支援の実施	4
埋蔵文化財保護事 業費（再掲）	34,837 (34,839)	・農林公共事業に係る発掘調査（1件）及び埋蔵 文化財の普及啓発の実施（埋蔵文化財センタ ーへの委託）	4
計	87,465 (90,296)		

(5) 地域の特性を活かし暮らしを支える活力ある圏域の形成【5-4】



施策の推進方向と主な取組み

⑧県を越えた交流連携の推進

【令和5年度における評価と見直しの方向性】

<p><多様な分野における近隣県等との交流連携の推進></p> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台空港と山形・庄内を繋ぐ直行バスを運行する事業者に対する支援を行い、コロナ期間を挟んで運休となっていたバスの運行再開が実現した(仙台空港-山形:1日2往復、仙台空港-庄内:1日1往復)。(再掲) <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣県や関係機関と連携し、各重点市場に対して仙台空港からの県内周遊プランの周知を行い、FIT層(海外からの個人旅行者)の本県への誘客を図る。(再掲) <p><目的指向型の国際交流・連携の推進></p> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県において文化・スポーツ合宿を行う団体を支援し、海外からの合宿誘致も行われた。 <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県外や海外から本県への文化・スポーツ合宿を行う団体を支援していく。
--

【令和5年度関連事務事業】

(単位:千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況	関連する SDGsの ゴール
重点市場のポストコロナに向けた誘客推進事業費(再掲)	20,464 (20,468)	・現地観光コーディネーター等による現地情報の収集や本県観光情報の発信等による重点市場(台湾、中国、香港、韓国、ASEAN)からの誘客を推進(再掲) ・他県空港から入国した外国人旅行者を誘客するための旅行会社への支援を実施(再掲) ・台湾、香港、韓国、タイでの現地プロモーションを実施(再掲)	11
乗って満喫!やまがたバス旅促進事業費(再掲)	157,716 (252,800)	・仙台空港と山形・庄内を結ぶバスを運行する交通事業者(2社)への支援を実施。	11
スポーツ振興・地域活性化推進事業費(再掲)	5,910 (6,311)	・県内で合宿する県外文化・スポーツ団体の誘致のための補助(3件) ・スポーツイベント(パブリックビューイングやモルック)の開催による交流の拡大	11
計	184,090 (279,579)		